

陸前高田発

「桜ライン311」



桜の木を植えて後世に津波の到達点を伝えようという「桜ライン311」の取り組みに一関市の県立大東高校の2年生37人が参加しました。今年2月に植樹活動を進めるNPO・「桜ライン311」の岡本翔馬代表が大東高校で講演したことがきっかけで、生徒たちは春休みを利用して参加。陸前高田市広田町の津波の到達点で土地の所有者から海が見えない山の中まで津波が来たことを教わり、高さ2.5メートルから3メートルほどのオオヤマザクラの苗木6本を植樹しました。

(3/19 ニュースエコー)

釜石発

太陽光発電に貸し出し

釜石市は東京の建設コンサルタント会社と協定を結び復興公営住宅の屋根を太陽光発電のために貸し出すことになりました。釜石市では震災でエネルギーの確保が課題となったことを教訓に再生可能エネルギーの積極的な導入を進める計画を策定しています。太陽光発電はその一環で市が建設する5か所の復興公営住宅の屋根を貸し出し、太陽光発電パネルを設置して発電を行います。電気は平常時は電力会社に売られ、災害時には復興公営住宅の集会所などで使います。被災3県では初めての事業で注目を集めそうです。(3/20 ニュースエコー)



(写真は調印式の様子)

釜石発

「レトロ列車」到着



4月5日、6日の南リアス線・北リアス線の全線運転再開を前に三陸鉄道に待望の新車両が到着しました。釜石駅のホームにやってきた

紫色のレトロ調車両は建造費用は1億6000万円で、クウェートからの支援を受け新潟県で製造されました。三陸鉄道では全線運転再開に向け5両の新車両を導入しました。この日搬入されたレトロ調車両は大船渡の車庫で整備を受け4月5日の南リアス線全線再開を祝う記念列車として運行します。(3/22 ニュース)

陸前高田発

高田道路全線開通

被災地の震災復興に大きな役割が期待される三陸沿岸道路の一部、高田道路が全線開通しました。高田道路は、大船渡市の通岡インターチェンジと陸前高田インターチェンジまでをつなぐ4.1キロの自動車専用道路です。



高田道路の開通で津波浸水地を通ることなく陸前高田と大船渡を行き来できることとなります。(3/23 ニュース)

陸前高田発

ベルトコンベア稼働

陸前高田市で復興工事の土砂を運び出すための巨大なベルトコンベアが動き始めました。コンベアを支えるつり橋は地元の児童が「希望の



かけ橋」と名づけました。長さ3キロにおよぶベルトコンベアは1日8時間稼働で2万立方メートルの土砂を運ぶ能力があります。造成工事では標高120メートルの今泉地区の山が45メートル高さまで削られ、宅地や公共施設の建設用地として使われます。土砂は主に高田地区の土地のかさ上げに活用される予定です。(3/24 ニュースエコー)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.abc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122